JCAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントンDC日本商工会会報

12月号 2011年 No. 439

目次

- シリーズ--日本語教育の現状に迫る～第三回～「JCAW学校訪問『ラングレー高校・日本語Ⅱ』」NSFフェロー合田哲雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その3）」NIH National Cancer Institute(NCI), Molecular Imaging Program 小林久隆・・・・・・・・5
- 「亜米利加剣道始末記　其の三」日本国大使館経済班　清水 延彦・・・・・・・・・・・・8
- 「DCじゃ～なる－第5回」袴田 奈緒子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 「ワシントンおとめ Vol.4」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- バージニア州紹介シリーズ～その③『州名所・旅行・食文化』」米国バージニア州経済開発機構・日本事務所　代表・出口　光次・・・・・・・・・・・・・・16
- ワシントンの映画好きによるリレー連載：第5回「ワシントンで気ままに映画を語ろう」カッパ谷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 映画「Anonymous」：長野　さわか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 今月の書評「Red Market」：池原　麻里子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 連載小説「ポトマックの煌めき」最終話愛川耀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
- 今月の簡単レシピ：木内由紀・・・・・・・・・・・・・・・29
- English Rescue by Jennifer：「日本人が間違いやすい英語表現⑨」・・・・・・・・・31
- 編集後記・・32

今月の特集

シリーズ--日本語教育の現状に迫る～第二回～「JCAW学校訪問『ラングレー高校・日本語Ⅱ』」

バージニアはマクリーンのラングレー高校で日本語を担当されているスクロンス先生の授業見学及び先生との意見交換の模様をご報告致します。P.2

「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その3）」

NIH日本人研究者によるリレー執筆コーナー。今月の第三走者は癌の研究をされている小林久隆先生です。P.5

「亜米利加剣道始末記　其の三」

日本国大使館経済班・清水延彦様の亜米利加剣道始末記。第三弾はジョージワシントン大学剣道部の稽古模様や異文化がもたらす葛藤などをご執筆頂きました。P.8

「バージニア州紹介シリーズ」

第3回目の最終回は、バージニア州を楽しむための、ビジネスを離れた「州名所・旅行・食文化」等の分野に亘ってご紹介頂きました。P.16

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

1819 L Street N.W., Level 1B, Washington, D.C. 20036 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948 www.jcaw.org

シリーズ～日本語教育の現状に迫る～「第三回」

JCAW学校訪問「ラングレー高校・日本語Ⅱ」

日時：10月24日（月）9:40am-11:10am（授業見学）11:10am-12:00pm（意見交換）
場所：Langley High School (6520 Georgetown Pike, MacLean, VA, 22101)
http://www.fcps.edu/LangleyHS/index.html
日本語教師：Andrew A. Scronce先生

ワシントン商工会は、2012年桜植樹100年の記念行事の一つとして米国における日本語教育の支援を行う。その一環として、10月24日にマクリーンのラングレー高校で日本語を担当しているスクロンス先生の授業（日本語Ⅱ）を見学するとともに、先生と意見交換を行った。素晴らしい授業と生徒たちの学習意欲に圧倒され、日本語教育を支援する上でも情熱的な教師を支えることの大切さや教育は量だけではなくその質が重要であることなど改めて実感した2時間半であった。以下、授業見学及び意見交換の要旨である。

1. ラングレー高校見学の背景

ラングレー高校は生徒数約2,000人。バージニア州実施の学力調査（SOL）やAP（大学レベルの学習を先取りする観点から高度な内容を教える授業）の成績も極めて高く、95%の卒業生が4年制大学に進学する進学校であるとともに、Advanced Studies Diploma（優等卒業証書）取得には外国語の単位が必要であるなど外国語学習（日本語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ラテン語、ロシア語）にも力点を置いている。このラングレー高校では、スクロンス先生が着任してから日本語を履修する生徒が32人から120人に増加した。メイン州出身のスクロンス先生は高校時代、日本語教師・小林直人先生の情熱と太鼓など日本文化も盛り込んだその教育に大きな影響を受け、日本への留学・JETプログラムでの教師経験（小田原市）・マサチューセッツ大学での修士取得（日本文学）を経て現在、ラングレー高校の日本語教師をしておられる。スクロンス先生と知り合いの小林知代様の紹介で、今回、6レベル（レベルⅠ～Ⅴ及びAPレベル）における初歩から2段階目の「日本語Ⅱ」の授業（90分）を見学することができた。

2. 「日本語Ⅱ」の授業の様子

高校生相手に90分間集中力を持続させる授業を行うことは難しい。日本では逆に1コマを40～45分に短縮している高校もあるくらいであるが、この「日本語Ⅱ」はあっと言う間の90分と感じるくらい、スクロンス先生の授業と生徒の学習意欲は見事だった。

20数人の様々な生徒が集まったその授業は、「起立・礼」から始まった。アメリカの授業はconstructionism（構成主義）の考え方に則って先生ができるだけ生徒に寄り添い、その理解を支援するというスタイルが強いが、スクロンス先生の授業も生徒の関心や好奇心を引き出す努力の一方で、教師や他人の発言はしっかり聞くように常に指導するなど日米の教育の良い部分のコンビネーションだと感じた。授業は、先生は日本語と英語を駆使し、「誉める」と「正す」の緩急をつけた指導の中、「先生の説明を聞く」、「グループで日本語で会話する」、「漢字を書く」といった学習活動をテンポよく展開し、すべての生徒が90分授業に100%集中するようにしていた。

授業は、簡単なウォーミングアップの後、「〇時〇分」という時間の言い方について、先生が独自に作った教材をスクリーンに映して教えた上でトレーニング。次に「TimeからTimeまでthingをverb」という構文について説明した後、生徒は立ちあがってグループを作り、お互いに「午後の11時から朝

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

の7時まで私は寝ます」などと会話の練習。先生の説明には生徒からすかさず「「授業があります」のように「thingがverb」の形もあるのではないか」と質問が出るなど生徒の学習意欲が印象的だった。その後、先生が科学（science）や社会科（social study）といった学校の科目についての日本語を教えた後、生徒同士で先生が作ったフリップを使って会話の練習。さらに、「一日（ついたち）」「八日（ようか）」といった特別な読みをする日にちの表現を教えた上で、自分の誕生日を漢数字で書かせ、お互いに言い合う。最後に、今日の漢字として「先」「生」「今」「毎」を教え、生徒に書かせた上で、先生がチェック。「（「今月」と書いた生徒に）「月」が曲がっている」、「二つの字の大きさを揃えて」と先生は厳しかったが、生徒の字はなかなか上手だった。漢字はBlackboardを使って宿題にもなっているとの由。残りの時間で先生が「日本のHomeroom Teacherは、教師であるとともに生徒へのカウンセラー、保護者との折衝、事件を起こした場合の警察からの生徒の引き取りなど生徒に関するほとんどすべてに責任を負う。そのため、生徒と学級担任のつながりは生涯続くこともある」と話しをすると生徒から「学級担任は授業もした上でそこまでやっているのか」と驚きの声があがる中、いつの間にか終業のベルが鳴っていた。互いに関連する内容について「教える→プラクティス」という学習活動の流れをテンポよく繰り返すことで、生徒の集中力は90分見事に持続していた。

3. スクロンス先生との意見交換

授業終了後、市川様（JR東海）、久能様（S&R財団）、小林様（ワシントンコア）、佐藤様（ロミ不動産）、寺澤様及び合田でスクロンス先生と意見交換を行った。

先生からは、

- 中国は教材も人も出すから「中国語」を開設してほしいとロビー活動をしている。自分としてはハイテクノロジー機器があれば漢字の指導などにも便利だと思っているが、ただリソースを投入して生徒数を増やせばいいと思っていない。スペイン語は12～13クラスあって教師も多いが、自分のように日本語の全レベルを全部一人で担当している方が生徒への継続的なケアができるし、教材も自分で工夫できる（スクロンス先生は教科書は使わず、自分で教材を工夫している）。一人は大変だし、APレベルになると日本語だけではなく日本の文化に対する理解も求めれるので指導も難しいが、自分は今の環境を楽しんでいる。
- 日本語受講生徒や50人程のメンバーがいるラングレー高校のNational Japanese Honor Societyは、ポスターや揃いのTシャツ、プロモーションビデオなどを作成して、自分たちの後輩に「日本語」をアピールしている。一定の生徒数がいないとスペースやコマ数に影響するが、数だけではなく、日本語や日本文化に高い関心のある生徒や自分の指導方法についてくる生徒など熱心で質の高い生徒を集めたいと思っている。
- フェアファックス郡では、15の高校で日本語を教えており、そのうち5人の日本語の先生がアメリカ人で、そのうち2人が男性（佐藤様によれば、二人とはスクロンス先生とレストン・サウスレイク高校のAdam　Podell先生で、Podell先生は昨年米日財団のアワードを受けておられるとの由（http://www.us-jf.org/2010award.html））。熱心な日本語教師の輪を広げ、増やすことが大事。トーマスジェファーソン高校の大谷浩二先生はその中心で大変熱心に取り組まれている。

4. 学校見学をして

スクロンス先生の数だけではなく質を求める姿勢は、先生自身の日本語教育に対する大変な努力と自信に裏付けられていることに強い印象を受けた。日本語と日本文化に強い関心を持ち、自分で教材を開発して、90分生徒の集中力を持続させる質の高い教育を行う。そんな先生自身が、ラングレー高校の生徒にとって日本語や日本文化に触れ、親しもうとする最大の魅力になっている

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ことを痛感した。先生が教室に日本語で貼っていた言葉、「先生は辞書ではありません。辞書は辞書です。自分で頑張ってください」にしっかり付いていく生徒はこれからこの国の中核を担う人材に育つだろう。日本にとってそれは想像ができないくらい大きな財産である。このような熱心で魅力的な先生をどうエンカレッジし、その輪を広げていくかという問題意識とともに、私自身は同じように頑張っている日本の先生とスクロンス先生とが交流し、刺激し合う場があったらと思った次第である。

以上

氏名：合田哲雄（ごうだてつお）
職名：NSF（全米科学財団）フェロー
経歴：1970年生。1992年旧文部省入省。国立大学法人化（2004年）、言語活動・理数教育充実の学習指導要領改訂（2008年）等の担当を経て2011年2月から現職。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その3）」

NIH National Cancer Institute(NCI), Molecular Imaging Program 小林久隆

この連載「NIHからのメッセージ」の第一回目をお書きになられた赤畑先生、編集長の為村様から、「一般の方にもわかりやすいように、NIHという研究所と、そこで行われている研究を紹介してほしい」とのお話を頂いた時に、学生時代の恩師の事を思い出し、よろこんでお引き受けしました。もう30年近く前になるでしょうか。某医学部の学生時代に研究室で学んでいたころ、当時まだバリバリの若き教授でおられたとある先生が、いつ寝ておられるのだろうと思うほど仕事をされておられたのに、「税金でしている仕事を、税金を払っている人に説明できないでどうする」とおっしゃって、休日に市民公開講座や学園祭などにも積極的に参加されて、一般の方にかなり分かりやすく仕事のお話をされておられました。私もそういう意識をいつも持って研究を続けていたいと思いながら仕事をしてきましたが、そこまでの発見も開発も出来ないうちに、いつの間にか当時の恩師よりも年が上になってしまいました。今回このような機会を頂き、少しでも一般の方にNIHという研究所、そこでどのような研究がおこなわれておるのか、また私のような日本人がどのような仕事をして頑張っているのか、少しでも興味を持って頂く機会になれば幸いです。

私はこのNIHという研究所に来てはや17年目になりました。こちらに留学が決まっていた1995年1月に西宮の実家が阪神大震災で被災し半壊。出発を遅らせて頂き、2か月遅れで初夏にこちらに参りました。東日本大震災は、私が日本を離れた頃の西宮や神戸を昨日の事の様に思い起こさせました。私は元来、放射線科の診断医で、日米通じてずっと、癌の画像診断とそれを応用した治療を研究のテーマにしています。そこで、NIH（NIHは、その中に属する27の研究所の総称ですので、National Institutes of Healthと複数形が正式名称です）にあるInstituteの中で最大のものであるNCI（National Cancer Institute）に所属しています。

NIHに関しては、第一回の連載で赤畑先生が詳しく紹介されておられますので割愛し、ここではNCIについて少し紹介させて頂きたいと思います。NIHが現在のような病気割の組織になったのは、1950年頃で60年ほど前の事です。アメリカは1937年のRoosevelt大統領、1971年のNixon大統領と一貫して「対がん政策“Cancer Act”」をとってきた国ですので、癌研究は世界でも最も進んでおりNCIはその中心となってきました。NCIは、1937年のRoosevelt大統領のCancer Actによって、現在のBethesdaキャンパスの地に創設されたので、1948-49年に現在のNIHの組織になる前からあった唯一のInstituteです。この経過から、NCIはNIHに属する一つのInstituteではなかったわけで、その名残りが今でも、「NIHとNCIそれぞれの長官は時の政権の人事として行われ、ともにCongressに出向いてBudgetを審議する」という二重構造として残っています。

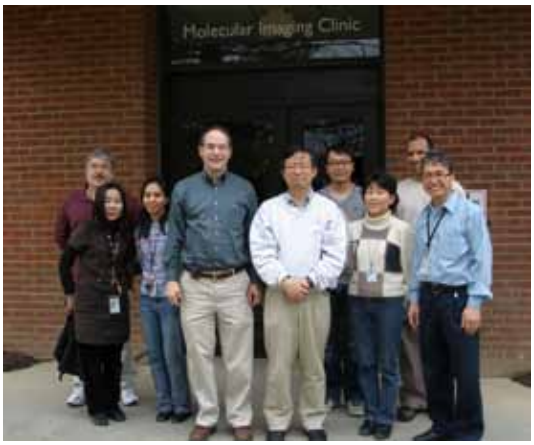
このようにNCIは、NIHでも最大かつ最古のInstituteです。ところが、私の研究テーマである「癌の画像診断」を研究する部署は、私が来た1995年当時にはまだ存在しませんでした。1999年に当時のClinton政権下のNCI長官であったKlausner先生が発案して、現在所属する分子イメージングプログラム（Molecular Imaging Program）ができたのは、さらに遅れてBush政権下の2004年の事でした。こういう経過で現在の私の研究室に設立から携わり、そのラボ・チーフとして研究を進めてきております。

私の研究の対象は「癌」です。癌は言うまでもなく、ほとんどの先進国において現在最大の死因

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

になっている病気です。2-30年前に比べれば、診断、治療法とも飛躍的に進歩して、多くの助からなかった患者さんが助かる時代になってきました。白血病が致死の病であったものが、ある種の白血病では半数以上の患者さんが助かる病気になったことなどが、その顕著な例です。ですが、それでもまだ、多くの患者さんが、癌で亡くなっています。また、抗がん剤などの治療の苦しさも、患者さんを悩ましています。では、どうすればよりよい癌治療ができるのでしょうか？そこに、卒業後10年あまり臨床で働いてきた後に、私が目指すことにした研究のゴールがあります。このゴールを達成するためには、重要な点が2つあると思っています。一つは正確に癌を見つける事。診断です。これは、癌かどうかという事のみならず、どこまでの広がりを持っているか、治療した後にわずかでも残っている癌細胞があるかどうか、という事を含みます。もう一つは、正確に癌だけを取り除く事。治療です。これは、取ればいいというだけではなく、どれだけ正常の組織を傷つけることなく、癌細胞を殺す、あるいは取り除く事ができるかという事を含みます。いかに、患者さんの体にやさしくかつ完璧な治療ができるか、という挑戦でもあります。この二つの目標は、一見全く違う方向のようではありますが、近年、後述するようにある側面では表裏一体のもので一元的に達成可能なものではないかと思うようになってきました。

まず、一つ目の「正確な診断」を達成するために、あらゆる診断手法を学び、そこに使われる機器や薬剤を駆使する事によって新たな世代の診断技術を開発する事を試みてきました。臨床の場では放射線診断医として、X線CT、MRI、核医学診断には実際に携わり、機器の原理、造影剤の役割を学んできました。そしてその経験と基礎科学の知識と技術を融合する事で実験室での研究開発を進めてきました。そしてその延長線上で、5年前に「癌細胞に取り込まれた時にのみ光る」造影薬剤を開発し、2007年に発表しました。現在もさらに多くの種類の癌に応用範囲を広げられるように、また、臨床に用いやすい薬剤になるように改良を進めて、臨床応用への準備を推進しています。この研究は、2008年には当時のNIH長官であったZerhouni先生が、アメリカ議会の公聴会でNIHでの新技術の開発例として紹介されて、その年のNIH予算の獲得にも役に立ったのではないかと思っております。2009年には、日本のTBSが制作した「夢の扉」という番組でもこの開発の経緯を特集して頂き放送されましたので、ご覧になられた方もあるかもしれません。この方法の開発で、体内にある「癌細胞のみを見つけられる」という、私自身の一つ目の課題に一応の答えを出す事ができたと思っています。もちろん、患者さんのお役に立つにはまだ少し時間がかかる事とは思いますが。

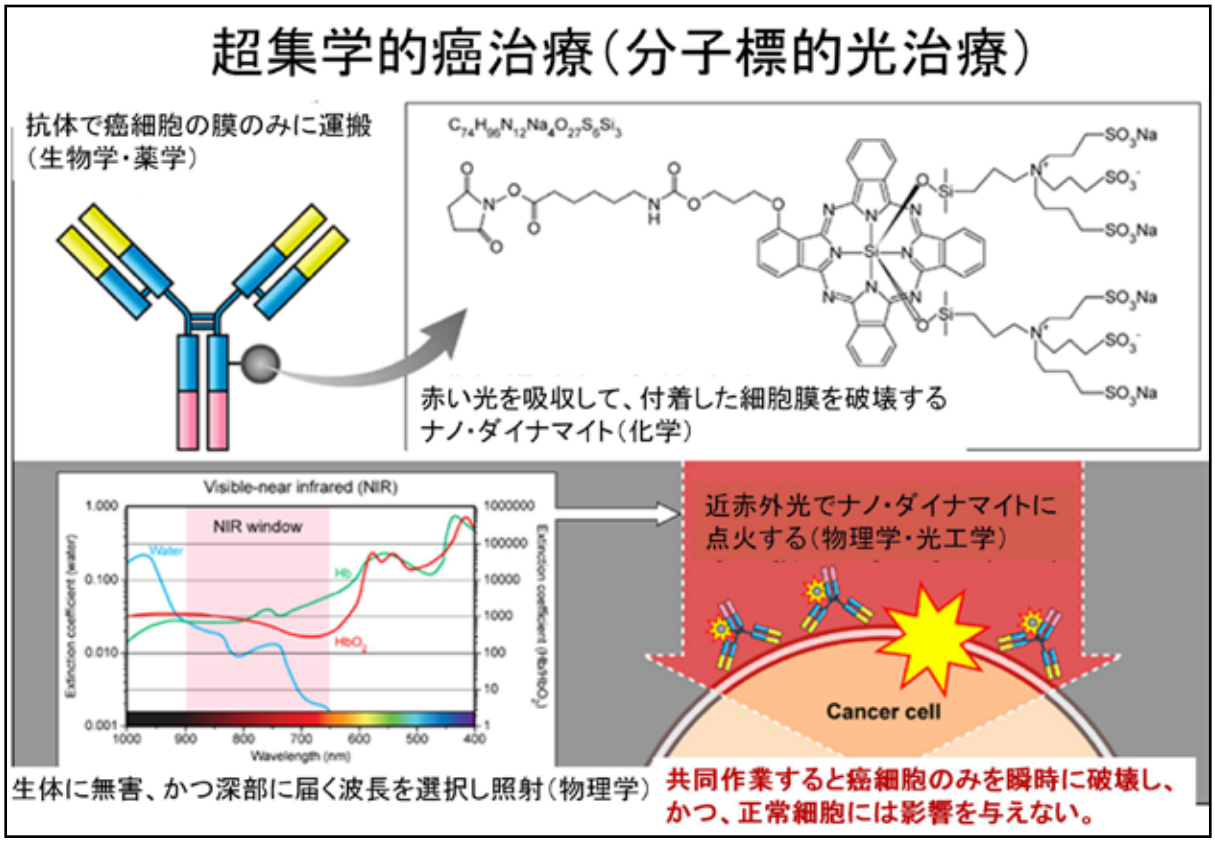


分子イメージングクリニック（NIH・ビル10）の前でプログラムのメンバーと。

次に、私の二つ目の課題である副作用を出さない「より正確な癌治療」に関してなのですが、現在の癌治療法の問題点は、「外科手術で切り取る」にしても、「放射線で焼く」にしても、「抗がん剤で殺す」にしても、癌細胞のみではなく正常の臓器や細胞にも「切る」、「焼く」、「殺す」といったダメージを与えて、「正常の組織ごと取りだす」あるいは「癌細胞の方が少し弱いから効く」といった事を目指していたわけです。ですから、言って見れば「毒を以て毒を制する」というような方法であったために患者さんの体に大きな負担があったわけです。私が一つ目の課題を克服するため、いろいろな開発を行っている間に、二つ目の目標であった「正常の細胞を傷つけずに、癌細胞のみを殺す」正確な治療方法にも、一つの道筋が見えてきました。もちろん、上記の方法で光らせた癌細胞を、軍事技術にも使われているレーザー光線などを用いて細胞レベルで個々に狙い撃ちにするのも一つの手段ではあり、そのような手術ロボットの製作もNIH内でも開発を進めていることも事実です。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ですが、もっと直接的かつ簡単に、上記の「癌細胞のみを光らせる」方法で癌細胞から出す事ができる光を、うまく転用する事によって「癌細胞のみを殺す」技術を開発できるのではないかと考えました。そして、「細胞を傷つけない光（紫外線や放射線のような体に悪さをするものでない光）」と「この特殊な光を当てなければ、また、細胞に付着する事がなければ、いかなる細胞も傷つける事がない薬」を同時に用いる事によって、体にとって「毒」になるものを何も用いないで、体の中の癌細胞のみを選んで消滅させる方法を完成しました。この原稿が出版される頃には、一般に発表している事と思います。（2011年11月にNature　Medicineという雑誌に発表されます。）この方法が、私の二つ目の目標「正常の細胞を傷つけずに、癌細胞のみを殺す」ことができる正確な癌の治療方法の究極に近い答えであります。今後は、この方法で一人でも多くの患者さんを救う事ができるように、少しでも早く臨床で利用できるよう努力していこうと思っています。



新しい癌治療の説明図。正常の細胞を傷つけずに体の中の癌細胞のみを殺す事ができる。

私はこの16年間日本を離れてこのような研究をNIHで続けてきました。私が教育を受けた日本は医師不足が問題になっているにもかかわらず、私はこの16年間、日本の医療には全く貢献できておりません。ですから、教育して貰った日本の国民、また16年間研究させてもらったアメリカの国民の役に、少しでも立てるような研究・開発の成果を出して、医療として世界の癌に苦しむ人々に還元できる事を目指して頑張っています。以上、簡単ではありますが、私の所属しているNCI、そこで私が行っている研究について紹介させて頂きました。少しでも皆様のNIHという研究所やそこで行われている研究に対するご理解にお役にたてれば幸いと思いながら、私の章を終わろうと思います。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「亜米利加剣道始末記　其の三」

日本国大使館経済班　清水 延彦

しばらく前に、テレビジャパンで「塚原朴伝」という時代劇が放送されていました。塚原朴伝は、鹿島新当流という剣術を遣った16世紀の実在の人物で、劇中の剣術所作も実際の鹿島新当流に則したものが多く見受けられました。当時は西の京都と東の鹿島を中心として多数の剣術流派が存在しており、俗に京八流鹿島（または関東）七流と呼ばれていました。源義経が遣ったとされる鞍馬流もこの京八流の一つとされています。日本では古来より武力の象徴たる武器が神格化され、剣術の発展継承が神官や僧侶によって担われてきた例が見られます。鹿島新当流もそうした例の一つであり、剣（又は武力）の神である武甕槌（タケミカヅチ。国譲り神話の中で武力平定に貢献した神様です）を祭った鹿島神宮の神官・鹿島氏が代々継承していた剣術です。このように日本の剣術流派の源流はかなり古い時代にまで遡るものですが、こうした剣術流派のいくつかは現代に至るまで受け継がれているのです。

剣道の話をすると、こうした古い流派との関係について尋ねられることがよくあります。全く別物なのか、それとも、剣道自体がいずれかの流派に属するのかといったことです。簡単に言ってしまうと、剣道は剣術と全く同じです。剣を遣う武術をかつては「剣術」や「撃剣」などとさまざまに呼んでいたのですが、明治期に呼び名を統一するために出来上がったのが「剣道」です。したがって、「剣道」においては、本来、どういった流派を遣うかは自由なはずでした。実際、少なくとも昭和初期までは、北辰一刀流、中西派一刀流や神道無念流といった流派の剣道家が実在していました。しかし、防具を着用して実際に打撃を行う稽古スタイルが主流になったことで、こうした稽古スタイルそのものが「剣道」として認知されるようになりました。実際には、剣道には、防具と竹刀による稽古の他に型稽古（定められた所作を習得することを通して技を学ぶ稽古方法）があります。しかし、この型稽古は、初心者を統一的に指導する必要性から、さまざまな流派の技を集大成したものとなっており、言わば基本剣術と言うべきものになっています。こうした事情から、今日の剣道家で特定の流派を名乗る人はほぼありません。剣道が一定の様式に統一されてしまった結果として、古い流派は剣道とは別に稽古するのが一般化しています。ただ、「剣道」が本来「剣術」と同義だったという考え方は、大変に重要なものと考えられます。なぜなら、「剣道」が本質的に「剣術」である以上、単に竹刀を相手に当てるだけでは意味がなく、仮に手にしているのが真剣であればちゃんと斬れているかという評価をすることが必要になるからです。このように、相手に竹刀を当てるという行為を外形だけで評価できない点が、剣道をスポーツとは一線を画すものとしているのです。

ジョージワシントン大学の剣道部で

さて、前口上が長くなりましたが、前回から続いて、米国での剣道の稽古について書いていこうと思います。ロックビルの道場を見つけた私ですが、平日に仕事を終えてからロックビルに通うというのは、あまり便利の良いものとは思えませんでした（稽古が出来ないよりはマシですが）。そのため、ロックビルの道場に実際に行ってみる以前から、並行して別な稽古場所の探索を続けていました。そうして、インターネットの情報を元に一番利便性が高いと見込みを付けたのが、フォギーボトムにあるジョージワシントン大学の剣道部でした。当時、環境省からジョージワシントン大学に留学していた同僚がいたので、彼に調べてもらいましたが、これといった情報はなく、既になくなっているのではないかとも言われました。確かに、競技人口が日本ほど多くない上に、大学と

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

いう狭いコミュニティーの中だけで部活動の人員を確保することは、容易なことではなさそうです。こうして、一旦はこの選択肢を諦めて、前回書いたような経緯でロックビルの道場の稽古に初参加したのですが、この道場の人たちからジョージワシントン大学剣道部の学生の連絡先を知ることが出来ました。早速、連絡を取ってみると、この剣道部は土曜日にも稽古を行っており（今は土曜ではなく日曜になっています）、外部からの参加も可能とのことでした。こうして、次の土曜に早速稽古に行ってみることにしました。

ロックビルの道場で

フォギーボトム駅を出てすぐの23ストリート沿いの建物の中のジム。そこで稽古は行われていました。ここもまたダンスのためなのか、壁の一面が鏡張りとなっていました。ただ、床は堅いながらも板張りになっており、いくらか稽古がし易い印象でした。早速、稽古に混ぜてもらいましたが、経験者の中にも有段者はほぼおらず、さらには竹刀を初めて握る初心者が多いという状況のため、私は稽古を指導する側となり、日本で言うところの師範席（整列する門人に対面する位置）に座ることになりました。

この剣道部では、初心者が多いということもあって、足さばき、素振りの稽古に多くの時間を割いていました。基本的な打突の稽古の際も、基本技術の習得に重点を置いていました。その一方で、初心者を日本に比べるとかなり早い段階で素振りだけの稽古から卒業させて、基本打突の稽古に参加させていました。米国での指導の際の難点の一つとして、稽古へのモチベーションを如何に維持するかという点があります。日本であれば、初心者はかなり長期間にわたってごく基本的なことを反復して練習するということが、剣道に限らず共通な文化として了解されていると思います。しかし、米国ではそうはいきません。「もうマスターしたから次のステップを教えてくれ」と言ってくるという話も聞きます。そのため、飽きさせない程度により先のステップを体験させるということが、モチベーションの維持のために必要となってきます。また、今回のように大学の剣道部ともなれば、これに加えて教育的な配慮も必要になります。学生が卒業後も剣道を続ける保証は日本以上に乏しく、むしろ異文化体験的な側面が強いことは否めません。そうした前提では、短い学生生活の間に如何にして剣道という異文化の全体像を理解してもらうかということが重要であり、基礎に終始するというのは必ずしも望ましくはないと思うのです。

剣道部の稽古後の様子

とは言え、こうした異文化を正確に理解してもらうというのは大変難しいものです。たとえば、稽古の最中に「防具を外して休憩したい」と言ってくる学生に対して、「本当にもう我慢できないのか」と問うと彼らは「もう無理だ」と答えます。こうなると無理強いは出来ませんが、限界を超えて発揮できる気力というものを理解してほしいとも思います。しかし、こうした気力のような定義が難しい日本語に依拠した話は、異文化の理解どころか日本特殊論のような超えられない壁があると受け止められかねません。結局は、ある程度は言葉で説明しつつも、まずは自分自身が率先して見本を示すことで、そこから何かを感じ取ってもらうしかないのではないかとも思います。そうすると、気がかりなのが、自分が果たして良い見本を示せているのかという点です。実際には反省することの方が多いのですが、これもまた日本とは一味違う稽古の在り様なのかもしれません。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「DCじゃ～なるー第5回」

袴田 奈緒子

【どぶ板選挙の終焉？恐るべしテレビ討論会】

共和党予備選の号砲が鳴るアイオワ州党員集会が約1ヶ月後に迫っているにも関わらず、レースの行方がいっこうに見えてこない。FOXニュースが8月末から11月中旬にかけて実施した直近4回の世論調査は、ペリー→ロムニー→ケイン→ギングリッチと見事なまでに毎回異なる候補者が支持率トップの座についた。この激動ぶりを説明する要因として、とりわけ重要なのがテレビ討論会だ。討論会での出来・不出来が原因で、支持率を大きく下げたり、上げたりするケースが続いており、討論会の影響力の大きさこそ、今回のレースの最大の特徴と指摘する識者も多い。

「討論下手」が最も高くついたのは間違いなくペリー・テキサス州知事だ。11月上旬にミシガン州で開かれた討論会。かねて「肥大化した連邦政府」の削減を主張する立場から、自ら廃止を公約した3つの官庁について言及する際、商務省と教育省に続く省の名前をど忘れ。「だめだ、3つめを思い出せない・・何てことだ」とうなだれた（その後、3つめはエネルギー省であったことが判明）。

ペリー氏は既に9月下旬の討論会で、地元テキサス州が不法移民の子供の大学授業費を減免していることを擁護する発言をしたことで、移民への厳しい対応を求める保守派からの支持がガタ落ちとなっていた。8月に出馬宣言した当初こそ、保守派の支持を集め、一躍フロントランナーに躍り出たペリー氏だったが、自他ともに認める「討論会嫌い」が災いし、すべり落ちるのも早かった。9月半ばに30%前後に達した支持率は、直近では約8%にまで転落した。

ポーレンティ・前ミネソタ州知事も討論会で「地獄」を見た一人だ。選挙戦が本格化してきた6月。ーレンティ氏は、ロムニー氏がマサチューセッツ州知事時代に実施した医療保険制度改革が、オバマ大統領の制度と酷似していることを揶揄（やゆ）し、「オバムニーケア」（オバマ＋ロムニー＋医療保険を合わせた造語）という言葉でロムニー氏を討論会直前に批判。討論会本番でも司会者が「オバムニーケア」に触れ、ポーレンティ氏にロムニー批判をさせようとしたが、当の本人はなぜか躊躇。「弱腰」との評価が下され、支持率は下降線をたどることに。この痛手から一度として回復することなく、8月中旬というきわめて早い段階での撤退を余儀なくされた。

一方、討論会でのパフォーマンスを契機に浮上してきたのがギングリッチだ。9月上旬、カリフォルニア州レーガン記念館での討論会で、ロムニー氏とペリー氏に医療保険改革を巡る論戦を促した司会者を「共和党員同士にいがみあいさせてはいけない」とたしなめ、拍手喝采を浴びた。その後の討論会でも随所で政策通ぶりを見せつけた。ペリー氏やバックマン氏、ケイン氏が経験不足やセクハ

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ラ疑惑で次々と自滅するなか、アメリカ政界ナンバー3の下院議長を経験した「オバマ大統領を打ち負かせる候補」として、一気に評価が高まってきた。長らく1ケタ台だった支持率は、最近は23%前後にまで上昇。選対幹部が6月に相次ぎ離反し、撤退も時間の問題と思われていたのが嘘のようだ。ただ、11月下旬の討論会で、長期間アメリカに滞在する不法移民への恩赦を示唆するような発言をしたことで、保守派から厳しい批判を浴びており、前述のペリー氏の発言と似ているため、同じ憂き目にあう可能性もある。

【なぜ？異例の討論会人気】

過去の選挙と比べても、今年の討論会の影響力は突出しているようにみえるが、その理由は主に3つ。まず、2000年選挙のジョージ・W・ブッシュ氏のように、共和党内が一丸となれる本命候補がいないこと。組織力、資金力、経験で圧倒的に有利なはずだったロムニー氏だが、中絶を容認した過去や医療保険改革の実績から「十分に保守でない」との批判がつきまとう。「ロムニー以外の誰か」を求める保守派が、意中の候補者を探す過程で討論会に目を向け、失望したり熱狂したりする構図が透けて見える。

第1に、全国区の知名度があったジュリアーニ前ニューヨーク市長やマケイン上院議員らが中心だった前回予備選と違い、比較的知名度の低い候補が多いことが挙げられる。人物像や政治理念が良く知られていないがために、討論会でのちょっとした発言で候補者への評価が乱高下してしまう。最後に、インターネットの動画配信の普及も一役買っている。候補者が失言した瞬間の映像などが「YouTube」で即座に流され、リアルタイムでテレビの前に座っていなかった人でも簡単に見られるようになった。FOXがGoogleと討論会を共催するなど、視聴者の質問が取り上げられる機会も格段に増えた。

討論会の反響が大きくなるにつれ、話題を呼び、視聴者が増え、影響力が一段と拡大。テレビ局にとっても、確実にある程度の数字が見込める「キラーコンテンツ」になりつつある。前回の大統領選挙の前年、2007年9月の討論会の視聴者は、約320万人でこの年で最高だったが、今年のこれまでの最高は610万人（9月22日のFOXの討論会）。年間を通しても、4年前と比べておよそ2倍の視聴者を引きつけている計算だ。

討論会のオンエア中はCMが極端に少ないため、討論会を開催することがすぐさま大幅な広告収入増につながるわけではないが、討論会を多く開催し「選挙に強い」イメージを構築することで、選挙シーズン中の広告収入増が見込めるという。テレビ局の積極姿勢も受け、討論会の回数は増えるばかり。既に10回超が開催されたが、（既に発表済みの分だけで）来年3月までにあと10回以上も予定されている。

【勝利の方程式に変化の兆し～どぶ板はもう古い？】

アイオワ州やニューハンプシャー州、サウスカロライナ州など小規模な州が多い「アーリーステイツ（early states～党員集会や予備選を早期に実施する州)）は、候補者が何度もその州を訪れ、直接有権者に働きかける「リテール　ポリティックス（retail　politics）」が特に有効だとされてきた。日本で言う「どぶ板選挙」だ。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

テレビ討論会の影響力拡大に伴い、この選挙の黄金律が崩れつつあるのではないかと言われ始めた。アイオワ州を例にとろう。現時点の同州の世論調査によると、支持率トップクラスは、ギングリッチ氏、ロムニー氏、ケイン氏。ギングリッチ氏は11月にアイオワ州選対事務所を開設したばかり。ニューハンプシャー州を重視するロムニー氏は8日しか同州を訪れていない。一方、同州に多いキリスト教右派層の支持取りつけに起死回生をかけるサントラム氏は既に約80日も訪れ、99ある州内すべての群を回ったただ一人の候補者だ。にも関わらず、アイオワでの支持率は4%前後（主要候補8人中7位）と低迷している。

「直前になれば、やはり一番重要なのはどぶ板選挙だ」という意見も根強い。勝利の方程式が根本的に変わるのか、その答えが見えてくるのはまもなくだ。

袴田奈緒子プロフィール

米ジョージワシントン大学国際関係学修士課程修了。その後日本に帰国し、約10年間、新聞記者として勤める。夫の海外赴任を機に退社し、今年5月よりワシントンDC郊外に在住。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンおとめ　Vol.4

アメリカの首都ワシントンは国内の有力者が集まる「政治の街」であるだけでなく、IMFや世銀グループなど国際機関の集積地でもあります。4回目の今回は、中南米向け開発支援を手がける国際機関、米州開発銀行（IDB）で活躍する日下部裕美子さんにお話を伺いました。

～略歴～

日下部　裕美子（くさかべ・ゆみこ）

アメリカ・コネチカット州生まれ。一時日本に帰国するも、幼稚園時に再び渡米。バージニア州マクリーンで小学3年生まで過ごした帰国子女。1991年東京大学文科二類入学、同年英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）に留学。94年、LSEの経済学士を取得。97年、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了。同年、ゴールドマン・サックス証券に入社、東京支店の投資銀行部門に勤務。99年、渡米しIDBに入行。中南米諸国の民間企業・金融機関の資金調達支援などの分野で活躍、2年前から財務政策の部署に移り、現在に至る。

—現在の仕事内容を教えてください。

「1999年から米州開発銀行（IDB）というワシントンに本部がある国際機関に勤務しています。IDBは中南米・カリブ諸国の開発援助支援を手がける金融機関で、日本やアメリカを含む47の加盟国政府が出資しています。現在は中南米の最貧国を支援するための無償資金や低利融資のプログラムの策定や、より柔軟に利用できる融資プログラムの仕組みづくりなど、IDB全体の財務政策や金融商品の開発を担当する部署で働いています」

IDB総裁と

「IDBに来た当初は民間セクター部門で、ブラジルの高速道路やアルゼンチンの送電線などインフラ開発向け融資案件の信用リスク分析やモニタリングを担当していました。こういった業務には現地視察が不可欠なのですが、いきなり南米3カ国の出張（アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ）に行くことになった時は、途上国自体初めてだったので、すごく緊張してビクビクしていました（笑）。すぐに慣れましたが。。。その後、ブラジルの貧困地域やメキシコでの再生エネルギー投資を支援したり、スリナムの低所得地区の住宅支援プログラムの立ち上げなどに携わってきました。IDB全体の予算の9割は政府向けですが、ここ10年間で特に伸びているのは残り1割の民間セクター向けローンです。リスクが高くまだ民間金融機関が手を出さない分野にIDBが投資し、それが呼び水となって民間の新たな投資につながり、貧困地域の開発が進むという成功事例が増えてきています」

—現在の仕事についた経緯を教えてください。

「ワシントンに来る前は、ゴールドマン・サックス証券東京支店の投資銀行部門で、主に通信業界の資金調達やM&A（合併・吸収）のアドバイザリー業務を担当していました。NTTドコモの新規株式公開

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

など大型案件に関わることができ、やりがいは大きかったのですが、平日は深夜まで働き、明け方になることもしばしば。。。週末もなく、家には数時間寝るために帰るだけの『機械』のような生活でした。短距離走をフルマラソンしているような感じで、心身ともに極限まで働く日々を続けていたのですが、そんな私を見かねたのか、当時仕事の関係でワシントンに住んでいた両親が『（アメリカでは）もっと人間らしい生活が出来る』と私に渡米することを勧めてくれました」

「子供のころ、アメリカに住んでいたため、もともと国際的な仕事を希望していました。ゴールドマン・サックスで金融の修行を積みながらいずれは国際機関に応募しようと考えていたため、両親のアドバイスを受け、思い切って転職することにしました。とは言っても、あまりに『機械』のような生活をしていたため、すぐにアメリカで職を探す気にはなれず、渡米当初の5ヶ月ぐらいは『人間』に戻る時間に充てました（苦笑）。お菓子を作ったり、読書をしたりのんびりと過ごし、自分は何をしたいのかみつめるための充電期間として有意義でしたね。楽しかった『のんびり生活』にも飽きてきたころ、ちょうどIDBでの仕事に応募し運よく合格したというわけです」

—金融業界への就職を希望した理由を教えてください。

「投資銀行に就職した経緯は、学生時代にベンチャーにはまっていて、ベンチャーキャピタリストになりたいと思っており、そのためには外資系金融に就職し、金融の専門性を習得するのが最短の道だと思ったからです。投資銀行業界の強いプレーヤーで経験を積み、自分を試したいという気持ちもありました」

「大学院時代は起業家支援サークルを立上げ、起業家を目指す学生とベンチャー企業の社長、投資家、コンサルタントを引き合わせたりするボランティア活動に携わりました。この縁で、シリコンバレーのベンチャーキャピタリストやインターネット草創期の天才的なエンジニアたちに会うこともできました。当時は東大でも他の大学でもベンチャーを目指す人はまだ珍しかったためか、注目を浴びたようで、様々な企業や団体から問い合わせを受け、大変忙しい、でも充実した学生生活を過ごしました」

—現在の仕事でやりがいを感じるのはどういう時ですか。

「自分が主体的に立ち上げた案件がきっかけとなり、その後も民間銀行からの融資が継続的に何度も行われたりして金融市場で評価を受けたときですね。開発効果の面でも、中南米の中小企業、ひいては地域経済のプラスになっていると感じられる瞬間は非常に嬉しいです。リスクが低く収益性が高い大型案件よりも、規模が小さくても社会公共性が高い案件向けの資金調達にとてもやりがいを感じます」

IDB 全体写真

「実際に現場に足を運び、高速道路が建設されたり、融資先の中小企業の生産現場を視察したりすることも大きな刺激になります。会社経営者や担当者と直接話すことでよりニーズに合った資金調達の仕組みを作ることができますから。中南米の融資先の現場の多くは、大型インフラの建設現場です。ヘルメット姿で工事現場を視察したり、地平線一面に続くブラジルのサトウキビ畑を視察したりといった泥臭い体験のすべてが良い思い出であり、貴重な体験です」

—今後のキャリアプランは。

「いろいろな角度で成長していきたいと思っています。IDBでは、財務政策の専門家として、世界経済が低迷しているときでも成長や開発を促進できるような効果的な財務計画を提案できるようになることが一つの目標です。IDBではポジションが空けば自由に挑戦できるので、より戦略的な仕事や興味深い案件に関われるポストがあれば受けてみたいと思っています」

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「現在の職務以外では、個人的に興味を持っているのが社会的分野での資金調達です。世界の成功事例を調べたり、関係者に聞いた話をサイトに載せたりしながら、将来的には、社会的貢献度が高いプロジェクトのための資金集めに貢献できればいいなと思います。また、最近国際機関を受けたい学生や日本人から話を聞きたいと言われることが多いので、12年間の国際機関での生活で感じたことなどを文章にまとめる作業にも興味があります」

—オフの過ごし方はを教えてください。

「私のオフの大きな目玉（？）の一つが、自ら主催している『Attractive & Interesting People Dinner（AIPD）』という日本人向けの異業種交流会です。元々はいろいろな業界の人たちとのつながりを気軽に作りたいということで始め、参加者それぞれが面白い人を連れてくる、ということだけがルールの気軽な食事会でした。最初は仲間内で始めたのですが、6年たった今、メーリングリストには250人以上が名前を連ね、会合の参加者も50～100人程度と大きく成長しました」

「商社、金融、弁護士、メディア、医者、国際機関、留学生などありとあらゆる人が参加していて、仕事だけでは作れない幅広いネットワークができ、世界が広がりました。少し大規模になりすぎて、最近は運営がとても大変になってきたことも事実で『嬉しい悲鳴』を上げている状態です。。。ただ、東日本大震災の復興支援イベントをこの異業種交流会で実施し、約100人の日本人が参加して下さって、4,000ドルの募金を被災地向けに送金できたことは本当に良い思い出です」

—東京大学を卒業した女性が集まる会がワシントンにあるそうですね。

「東京大学女子卒業生の同窓会として結成された『さつき会』のアメリカでの支部『さつき会アメリカ』（http://satsukiamerica.todai-alumni.jp）が2009年にニューヨークを中心に設立され、そのまた支部であるワシントンの幹事を務めています。ワシントンのさつき会メンバーは20人前後で、主に20～30代。世銀、IMF、IDBなどの国際機関職員、エコノミスト、メディア、商社、研究者など分野は様々です。さつき会アメリカのイベントは本部があるニューヨークで行われることが多く、ワシントンのメンバーでそれほど頻繁に集まっているわけではないのですが、年に2～3回開く食事会では、海外で道を切り開く大変さを分かっている同世代の仲間と話すことで人生勉強になることが多いです。ワシントン生活の共通項や話題も多く、大学時代のサークルなど昔話に花を咲かせることもできる。いろいろな意味で有難い会合だなと感じています」

さつき会

—今後の人生計画は。

「非常にフレキシブルです（笑）。仕事とプライベートの両立がしやすく、緑も多いワシントンは個人的にはとても住みやすい町だと思いますが、もう12年も住んだので、そろそろ新しい土地に移ってもいいし、やはり大好きな日本にはいつか戻りたいという気持ちも強いです。自分にぴったりのやりがいのある仕事が見つかる、あるいは一緒に帰るパートナーがいる、など何かきっかけができれば、意外とすんなり帰国するかもしれません。いずれにしろ、日本と海外を両方楽しめるような生活が理想です」

「海外での数々の貴重な経験を生かして、社会貢献度の高いこともしていきたいです。ずっと長い間仕事で結果を出そうと打ち込んで頑張ってきた年月が長いので、これからはもっと人生の楽しいことにフォーカスして落ち着いて生活したいと思うと同時に、創造性と冒険心、好奇心を持ち続けられる毎日を過ごしたいですね。欲張りすぎでしょうか？（笑）」

（聞き手：袴田奈緒子）

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「バージニア州紹介シリーズ～その③『州名所・旅行・食文化』」

米国バージニア州経済開発機構・日本事務所　代表・出口 光次

政治・経済と続いて、3回目の最終回として、バージニア州で如何に生活を楽しんで戴けるかを念頭に、ビジネスを離れて当州の見所、旅行・食文化等の分野に亘って紹介致します。

まずは、当州のVirginia Tourism Corp. (www.virginia.org)が紹介する中からお好みの場所を目的に合わせて選択してください。一番人気は、秋のWilliamsburg周辺を巡るコロニアル・ウィリアムズバーグでしょう。昭和天皇も宿泊されたWilliamsburg Innで食事を楽しまれる事をお勧めします。今も17世紀の面影を残し、300年以上の歴史の重みを感じさせられます。この地は、ロックフェラー・ジュニアが1960年亡くなるまで復興支援を行い、夫人と共に毎年訪れた場所でもあります。

The Williamsburg Inn

更に、お勧めはKingsmill Resortに宿泊され、目の前のJames Riverを眺めながらの食事は、17世紀にタイムスリップしたような、ゆったりした河の流れのように、喧噪を忘れさせてくれます（水は何時も濁ってますが）。

at Jamestown Settlement.

ゴルファーであれば、54ホールありますので何時でもプレイ可能です。（但し上級者はRiver Courseをお勧めしますが、現在はLPGAを開催する名門コースでもあり、スタートが上手くとれないかもしれません。かつてはミケロブクラッシックとしてPGA Tournamentが開催されていたコース。）

時間が許せば更に南に下って、軍港でもあるNorfolk(何時も空母が停泊)に足を踏み入れて下さい。見所は、①マッカーサー記念館（日本人にはお馴染みのサングラスとパイプの同氏は同地域の出身者で余生を送った場所）②クライスラー美術館 ③国立海洋センター、ノーティカス。丁度ノーティカス前に広がる海岸沿いのレストラン街は何処も新鮮・美味な魚介類が食べられ、昼or夜に立ち寄られる事をお勧めします。

未だ、お時間が許されれば、東側（大西洋側）のVirginia Beachは如何でしょうか。

夏は海水浴場として混雑しますが、温暖な気候ですので年間通して、新鮮な魚介類が豊富です。釣りがお好きな方は乗合船があり、約1時間の沖合で早朝から半日楽しめます。

次の地は、東海岸から西のアパラチア山脈の麓に飛びましょう。現在も出荷されていますが、かつては石炭の町Roanoke市です。駅近郊には100年前の面影が感じられます。Hotel Roanokeはその象徴とも言えます。近くのVirginia Tech.大学（VT）も出資して経営健全化に努めております。特長はこの一帯で産出される岩石を活

Hotel Roanoke & Conference Center

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

用した建造物です。この建築方法はVT大学自慢の建築学のようです。

もう一つは、現在も駅前の商店街で開かれている（土日だけ？）朝市です。
感激したのは、路上の花屋の前で何と自然に咲いた“桃の花”がバケツに無造作に生けてあるじゃありませんか。アメリカの桃は全く美味しくありませんが、花は日本のものと比べても遜色ありません。季節を感じながら暫くじっと見つめていると、農家のおばさんが「差し上げますよ」と声を掛けてくれました。余程物珍しく、哀れな物乞いの目で見ていたようです。日本の春の風景・節句を思い出している事など、想像出来なかったのでしょう。その地の産品は、ワイン・蜂蜜・リンゴ等の果物類。（ワインは山脈地帯だけに、お薦めで後に紹介します。）
この地の名所は他に、丘の天辺に建つ“Five Star”です。昼間は分かりにくいのですが、夜間ライトが点灯し、市街からもはっきり確認できます。又、近くまでドライブが可能で春—秋の期間は市街を一望でき（冬場は凍結もあり要注意）、日中はバードウォッチングを楽しむ方も多く訪れております。
もう一つの特色は、VT大学のキャンパス（更にR81を約45分南下のBlacksburg）は丁度今頃Football Gameの最終コーナーで、土曜日にhome groundでゲームがあれば、大渋滞を覚悟する必要があり。UV（University of Virginia in Charlottesville）とのゲームがあれば、Virginiaを2分する伝統の戦いで、大渋滞は必至。さて両校の今年のシード#は、今頃上位にランクされている事でしょう？---プロのゲームより（スーパーボール等は別ですが）、大学のゲームの方がチケットが入手しにくいのが実情です。

続いて、第三代大統領トーマス・ジェファソンの町、Charlottesvilleです。ニッケルとして親しまれている5セントコインの表に同氏、裏にMonticello（モンティチェロ）にある同氏の邸宅を表した2005/2006年度版コインが発行されています。ロタンダとして有名な円形の建物は同邸宅、バージニア大学に取り入れられ、どちらも世界遺産に指定されております。
是非、訪れて戴きたいバージニアの名所です。加えて、ワインの産地でも有名です。

Monticello

ヨーロッパから苗が持ち込まれ栽培されて、全米でワイン製造が初めて行われたのもバージニア州です。その後カリフォルニアに渡り、生産量では世界No.1を誇っていますが、バージニア州も400年の歴史を持ち、全米No.5のStateとして長年維持されております。（私の手元にも119社のワイナリーリストがあります。www.virginiawines.org参照。）
ワシントンへの帰路、R64 or R29に乗る前にCharlottesville市内のショップに立ち寄られることをお勧めします。ワインを始め手芸品、食品等々の珍しいものが発見出来るかもしれません。

winery

以上、3大観光名所を紹介しましたが、食生活を堪能される為の特別情報を提供します。

1. 魚市場：日本レストランも買い出しに出掛ける市場（in Maryland）
   ワシントンハーバーにある市場は(最近は知りませんが)、太陽に晒され鮮度が低いのはご承

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

知かと思います。この市場は、メリーランド州にあり、ベルトからR95　Northに向かい、東・Jessup/西・ColumbiaのExitで降りて、東に向かう。交差点を超えて左に刑務所を見ながら、右に小さな看板“Seafood　Market”を右折し、駐車料$1（当時）をゲートで支払い駐車。建屋の一番手前のマーケットが一般消費者用。刺身は無理でも、鮮度は保証付き、種類は豊富、少量でも3枚卸まで可能。（内臓だけを取り出せば、フリーザーバッグに入れて冷凍し、約1ヵ月は鮮度を保てます。）

2. Costco/VAでの2大お勧め品：

-a) King Salmonの塩サケ：
よくセミナー・パーティーで丸々と太った美味しそうなサーモンステーキが出されます。所が、美味しいはずのサーモンが、食後脂が強すぎて胸焼けを起こす経験を皆さんお持ちでは。これを解消する方法を教えます。Costcoで半身or丸ごと1本購入して、塩を適当に万便なく擦り付ける（最初は薄めが良い）。それをバッグに入れて冷凍保存する。最低1週間をおいてその日食する分だけを解凍して塩焼きにする。更には、おにぎり＋味噌汁で楽しめば（ピクニックに持って出るのもお勧め）日本でも味わえない最高の塩サケレシピとなります。（理由：胸焼けの原因である脂部分（霜降り状態）に塩分が浸透作用で入り込み、これが7日かけて上手くコラボし最高の味を創造する。従い、すぐ食べたいのを我慢して最低1週間待つのがミソ。）

-b) マッスル貝(Mussel) - 日本ではムール貝、カラス貝（発音は筋肉(Muscle)と同じ）
今が旬の黒色の貝。アメリカでは捨てるが如く安く、身がしっかり詰まって美味しい（日本では、築地で買っても高く、身は貧弱、上手くない）。これをKg単位で買って、自宅でスパゲッティ用の鍋（2重鍋）で蒸す。鍋底にカップ1杯の白ワインを入れてこれで蒸し上げる（赤ワインは使用しないこと）。暫く蓋をしたまま冷ます。手で触っても熱くない程度の内に親指の爪側で貝殻から押し出すように貝柱も一緒に外す（この時間帯に外せば面白いように貝柱も外れないで取れる）。全て冷凍保存して、その都度食べる分だけ取り出して解凍する。

料理法：たこ焼きの鉄板があれば、油をひいてガーリックの薄切り、ミジン切れを先に入れ、匂ってきたら蒸されたマッスルを入れて焼き目を付ける。味は正にエスカルゴの世界に変身致します。アルコールのお摘みには最高です。

美味しく蒸されたマッスルを食べさせるレストランがあり。ボルチモアのハーバー近くにあるレストラン。（有名なので、近くに行けば判明するはず。店内では、テーブルの下に鉄板のバケツをおいて、食べ殻をそこへ投げて捨てる。最初は大きな音が室内響き渡ります。）

まだまだ全て紹介出来ていませんが、次回機会がありましたら、続きを紹介させて戴きます。Merry Christmas & A Happy New Year !

米国バージニア州経済開発機構 日本事務所
代表　出口 光次
e-mail: kdeguchi@yesvirginia.jp
URL: www.ExportVirginia.org

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンの映画好きによるリレー連載：第5回
「ワシントンで気ままに映画を語ろう」

かっぱ谷

いきなりで恐縮ですが前回のチュブ子さん同様、私も同じく「B級」ファンであります。前回の本稿でチュブ子さんは「B級」の定義を“くだらない、トホホ感がある、にくめない、愛らしい作品群”とされていましたが、そこに“マニアック”という定義を付け足して頂きたいと思います。それはいかに普遍的なテーマを扱っていようが、マニアックな視点・角度で取り扱えばすぐさま「B級」なるということであります。例えば「トゥルー・ロマンス」という作品は若者同士の一途な恋愛という普遍的なストーリーを描いており、脚本・監督・映画会社すべてがメジャーであるにも関わらず、強烈な脇役陣のキャラ付と過度な暴力描写によってなどはB級映画臭がプンプンする作品に仕上がっています。逆に「ビューティフル・マインド」などは統合失調症による幻覚に苦しみながら“ゲーム理論”を生みだし、ノーベル賞受賞した数学者というマニアックなストーリーでありながら、視点としては彼と奥さんが共に苦難を乗り越えていく過程をメインテーマに据えたことで、メジャー映画として成りたっているといえましょう。皆さんにもそんな“マニアック”な「B級」映画の楽しみをご紹介していきたいと考えております。

今回、いただいたテーマに沿って“息抜き”ができる「B級」映画を考えてみました。皆様も多忙な毎日の中、飲みに行くなり運動するなりいろいろな息抜きの仕方をされていると思います。しかし、手段はどうであれ、「息抜き」の方法自体は大きく二種類に分けられるのではないかと考えております。

- 好奇心を満たす息抜き　－　普段接することが無いものに触れることで日常から解放される。旅行、読書、観劇など。
- 何も考えない息抜き　－　ただ単にボーっとする。家でゴロゴロしたりする場合やリゾートへの旅行など。

映画を見るということは日常を離れ、気を遣うことなく自分の時間を楽しめるのでどちらの息抜きの方法でもできます。それでは、それぞれの息抜きの仕方に適した映画をご紹介していきたいと思います。

【好奇心を満たす「息抜き」のためのB級映画】

普段接していない世界を垣間見るという意味ではドキュメンタリー映画は魅力的なのではないでしょうか？メジャーなドキュメンタリー映画といえばレニ・リーフェンシュタールの「オリンピア」三部作、市川昆監督の「東京オリンピック」など大イベントを記録する目的も兼ねた作品か、サーフィング映画の元祖である「エンドレス・サマー」や最近ではフランス映画の「皇帝ペンギン」など自然美や映像美を追求した作品がイメージとしては強いと思います。映画が映像記録媒体として機能していた古き良き時代を思わせるのはこういった映画なのではないかと思います。

一方、B級ドユメンタリーとなると予算の関係もあり、監督の工夫やセンスで社会問題や人物像を深く掘り下げる、体を張った映画が多くなります。古くは原一男監督の「ゆきゆきて、神軍」や前述のリーフェンシュタールの人生を描いた「レニ」など、かなり踏み込んだ映画が多いのも特徴です。しかしながら近年ではマイケル・ムーア監督（「ボウリング・フォー・コロンバイン」、「華氏911」など）、モーガン・スパーロック監督（「スーパー・サイズ・ミー」）、アル・ゴア元副大統領（「不都合な真実」）がB級的な手法でドキュメンタリー映画を作り、そのメッセージにより問題意識をもったという人も多かった

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

と思います。一方で、これら一連の作品に関しては論文を書いているかのごとく、自分の主義・主張を表現するのに映画という媒体を使ったに過ぎないという批評や編集や提示しているデータが偏っており、恣意的であるとの批判も多くみられます。この流れから、自分自身も含め、ドキュメンタリー映画に対してちょっと胡散臭さを感じている方も増えているように思います。そんな中、マニアックな世界から生々しい人間ドラマを切り取って、鮮やかに見せてくれる二つの作品をご紹介します。

まずは森達也監督による「A」。この監督の作品にはあまり主義主張が感じられず、裏側を見たいという欲望をどんどん満たしていく感じの印象があります。「A」という作品はオウム真理教の広報部長に密着して教団内を撮影したものであります。一応、その当時のオウム真理教に対する一辺倒な報道に違和感を覚えて撮影したとか言っていますが、多分そこまで言われている人々はどんな人たちなんだろうと思って訪ねてみたら入れちゃった　ー　実際はそんな感じなんではないかと思ってしまう感じです。見どころは教祖・幹部による凶悪犯罪を知った信者の揺れ動く心情と、彼らを取り巻く外部の状況です。特にこの映画を有名にしたのは警察による「転び公妨」と呼ばれる別件逮捕の実態が映像記録として残った点です。信者にしつこく付きまとい、触れたか触れてないか近づいた段階でわざと警察官自ら転び、公務執行妨害で逮捕する瞬間が捉えられているのです。後ほど逮捕された信者は無罪になりましたが、一方で警察によるこのような違法な手段が映像として残ったという点で大変話題になりました。この監督は他にもTVで「ミゼット・プロレス」「放送禁止歌」「ドキュメンタリーは嘘をつく」とタイトルからもよく制作できたなといった秀逸かつマニアックな作品群を残しているので是非そちらも見ていただきたいと思います。

二作品目は「チャレンジ・キッズ（原題：Spellbound）」です。これは全米スペル暗記大会に出場する8人の子供たちを追ったドキュメンタリーです。この8人の子供たちが本当に個性的、かつ魅力的。家族総出で応援しており、家庭教師をつけてトレーニングした上にインドで祈祷師を1,000人雇い優勝祈願するインド人家族。ひたすら喋り捲り「オレが優勝する」と自信満々にいう奇怪な白人の子供。真面目に勉強し、コツコツと積み上げる子供。「知らんうちに全国大会に行ってた」と親がびっくりするくらい気負いの無い子供。様々な人間模様を見せてくれます。それぞれの思いを抱いて臨んだ全国大会そのものは本当に筋書きのないドラマ。この監督は一生分の運を使い果たしたといってもいいぐらい、ミラクルな展開を見せてくれます。ネタばれ要素を含んでしまいますが、個人的には海外で子育てをしている親として、アスリート並みにトレーニングをし、祈祷師まで雇っているインド系移民の子供がつまずいた単語が“ダージリン”であったことにドラマを感じざるを得ませんでした。心に色々な思いを残してくれる作品だと思います。

【何も考えない「息抜き」の為の映画】

ドキュメンタリーを通して知らない世界を覗いた後は、もう何も考えなくてもいいような映画をご紹介したいと思います。何も考えなくてもいい映画というのは逆にいえば、真面目に見ては損をする“しょうもない”映画とも言えましょう。前回でも数々の“しょうもない”映画が紹介されていましたので、今回はバイオレンスに焦点をおいてご紹介したいと思います。バイオレンスと聞くと、“暴力を助長するのではないか”とか“教育上宜しくない”と言ったご意見もあるかと思います。またバイオレンスなんて息抜きにならない！という方もいらっしゃるでしょう。

しかし、バイオレンス映画は何も考えない息抜きに最適な要素を持っているのです。たとえば、大したストーリーがないとか、主人公は死なないとか、最後は勝つに決まってるとか、15発しか入らない弾倉なのにいつまで撃ってんだとか、色々あるわけです。もちろん、実際にはこのコラムの読者の皆様には紹介させていただく映画をお子さんと一緒にご覧になるのは止められたほうがよろしいかと思いますが、大人が憂さ晴らしにみるにはお勧めする次第です。しかもただ単に暴力を描写するのではなく、（笑えるほど）友情であるとか男のかっこよさを追求した作品をご紹介いたします。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今回、ご紹介したいのは「男たちの挽歌」シリーズ、「デスペラード」「クライング・フリーマン」です。私はこれら作品を不動の“カッコつけ三作品”と呼んでおります。

まずは「男たちの挽歌」ですが、言わずと知れたジョン・ウー監督（「ブロークン・アロー」、「フェイス・オフ」など）、チョウ・ユンファ、レスリー・チャンの出世作であります。なぜか主人公はこの二人ではなく、ハゲたおっちゃんなのですが、とにかく撃つ！！！二丁拳銃で撃つ！！機関銃で応戦されているのに主人公には一発も当たらない！！映画の最後のほうではいつしか禿げたおっちゃんもカッコイイと思わせるほどのパワーがこの作品にはあります。しかも泣ける。大変お勧めです。シリーズ二作目である「男たちの挽歌2」では、禁断の双子ネタで強引にキャラを生き返らせたり、撃たれて死ぬエキストラの人数が多すぎておかしなことになっていたりとちょっと色々と“荒い”作品ですが、最後の銃撃戦ですべてOKです。相変わらず禿げている主人公が30発以上撃たれても死なないというゾンビ並みの生命力で、最後はポーズも決めてくれます。「男たちの挽歌3」は実は全然違う映画を無理やりつなげて三部作にしているという、ハチャメチャなマーケティング戦略でつけられたタイトルです。やはり禿げたおっちゃんが主人公では辛くなったのか、チョウ・ユンファが主人公になっております。派手なアクションとちょっとキモいぐらいの男の友情が見どころの映画です。「マトリックス」のウォシャウスキー兄弟やタランティーノ、スコセッシ監督をとりこにしている「男たちの挽歌」シリーズ、是非見ていただきたい。

二番目はこれまたタランティーノ監督に見出されたメキシコの気鋭監督、ロバート・ロドリゲスによる作品です。恋人を殺され、自分にも重傷を負わせた麻薬王、“ブッチョ”を探し求めるさすらいのギタリストが主人公です。改めて文字に起こした段階でバカバカしいぐらいの設定ですが、これがカッコイイ。主演のアントニオ・バンデラスは常にうっすら汗をかいており、さりげなさなど微塵もない濃い演技を披露しております。ストーリーもギャグなのか本気でいいと思っているのか分からないレベルで、もうこの映画もとにかく撃つ！！！援軍を頼んだら来たのがギターケースにバズーカを仕込んだ奴だったり、足をへし折られたやつがその午後にはギブスして走ったり、リアリティーとは真逆のベクトルへ躊躇いもなく突っ走る様には快感すら覚えます。

三番目の映画は「クライング・フリーマン」という日本の漫画原作のハリウッド作品です。主演はあのマーク・ダカスコス！と言っても私もググるまで名前すら知りませんでしたが、米国版“料理の鉄人”であるIron Chef USAのコミッショナー役（鹿賀丈史の甥という設定）をやっている人と言ったほうが分かる人は増えるかもしれません。設定からして“中国マフィアによって殺し屋として洗脳された主人公は、殺すたびに洗脳状態が一時解け涙を流す”といういかにも小池一夫原作らしい設定です。脇役に島田陽子、加藤雅也、マコ岩松を配し、無駄な豪華さで封切ったものの鳴かず飛ばずであった記憶があります。しかし、とにかくアクションが素晴らしい。特にマークの身体能力を極限に生かしたアクションは美しいとさえ言ってもいいかもしれません。そのアクションだけでも見る価値は十分あるかと思います。その彼がなぜIron　Chefなのか．．．聞いてはいけない大人の事情があるのかもしれませんが、毎回オープニングで披露されるバック転がアクションスターとしてのプライドの片鱗が見える瞬間ではないでしょうか。

二週続きのB級映画づくしによって読者離れを危惧しておりますが、暇つぶしの一助になれば幸いです。さて次の方へのキーワードは、ご紹介させていただいたバイオレンス映画にちなんで、「トラウマ」とさせていただきます。怖かった、銀幕の中の人に敵わないと思った、など色々あると思いますので次回からは読者として楽しみにしております。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

映画『Anonymous』（2011年、英・独）

米国弁護士　長野 さわか

アノニマスと言ってもハッカー集団ではない。ウィリアム・シェイクスピア別人説を歴史サスペンス風に映画化したものであるから「作者不詳」というところであろうか。あの偉大なる劇作家にして詩人のウィリアム・シェイクスピアの作品は別人により書かれたという、彼の存在に関わる、重大な疑念に焦点を当てた歴史ミステリー。『インデペンデンス・デイ』や『デイ・アフター・トゥモロー』でお馴染みのローランド・エメリッヒ監督の最新作。

【映画あらまし】

学界で古くから言われてきたシェイクスピア別人説の一つに、エリザベス女王一世と親密な関係にあったオクスフォード伯エドワード・ド・ヴィアが本当の作者である、という説がある。エドワードには類稀なる文学の才能があった。時の女王エリザベスは、スコットランド女王メアリーの息子ジェームズがイングランドの王位を奪うことを恐れていた。そこでエドワードがエリザベスの権威を大衆に売り込む戯曲を書けば、女王の人気も上がると考えたわけである。そのためには、エリザベス寄りではない、第三者の作者名を冠して発表することとなった。エドワードは脚本家のベン・ジョンソンに名義使用の話を持ちかけるが、無名の役者ウィリアム・シェイクスピアに白羽の矢が…。

シェイクスピア名義で発表された戯曲は、たちまち民衆の間で人気となる。そこに記された一字一句はエドワードの創作である。ここで描かれているシェイクスピアは、文盲で大酒飲み。たちまちその名が世に知られるや、分不相応な強欲にとりつかれ、エドワードに対し名前の使用料を請求し始める。エドワードとエリザベスの秘密の計画、そしてイングランドの王位継承の行方はいかに…。

【シェイクスピア別人説】

シェイクスピアは1564年生まれ、1616年に亡くなった。語呂合わせで「人殺しいろいろ」と覚えろと教えられたので今でも世界史、イギリス史のタイムラグを考えるのに役立っている。学歴はグラマースクールだけと伝えられている。ということはせいぜい小学校卒業レベルということになるが、同作品では文盲として描かれている。シェイクスピアはこれほど世界中で研究の対象となってはいるものの、本人についてはあまり知られていない。

史実はごく僅かであること、そして「無学」の彼がどうやってあれほどの言葉の豊穣を手に入れられたのか疑問視されたので、「別人説」は学問の一分野に匹敵するほど研究されてきたと言ってもいいかもしれない。オクスフォード伯爵エドワード・ド・ヴィアのほか、劇作家クリストファー・マーローから哲学者フランシス・ベーコンまでが、本当のシェイクスピア戯曲の作者にされ、世界中の学者が自説を証明しようとし、精神に異常をきたすものも現れたほどだ。別人でなくとも、彼の作品の多くはそれまでに書かれた物語を種本として自作を書いたことは周知の事実である。実際、種本となった原作は今では学者や愛好家が読むだけであるのに、彼の作品は世界中で広く愛読書（？）あるいは教科書（で無理やり？）となっているのはまぎれもない事実だ。

【世界は舞台】

同作品はシェイクスピア劇を背景に「劇中劇」の形式をとっている。サー・デレック・ジャコビ（サー・ローレンス・オリビエと並び、唯二のデンマークとイギリス爵位を与えられている俳優。シェイクスピア俳優として著名で、ケネス・ブラナーも彼のハムレットを見て俳優を志すようになった。）が語りべとして、同作品の幕が開く。史実の欠如を逆手にとって、その存在自体を虚構にし、「世界はすべて舞台」のフィクションを作り上げているわけだ。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ジャコビと言えば、舞台では『ハムレット』、『リチャード三世』など素晴らしい経歴を持つが、私は個人的には東京グローブ座で山崎努が演じた『リチャード三世』が好きである。山崎努がいかに大俳優であるかと確信した作品であった。

最後に以下を引用し、締めくくりたい。

この世界は全てこれ一つの舞台、
人間は男女を問わず、全てこれ役者にすぎぬ、
それぞれの舞台に登場してはまた退場していく、
そしてその間に一人一人がさまざまな役を演じる
「お気に召すまま」

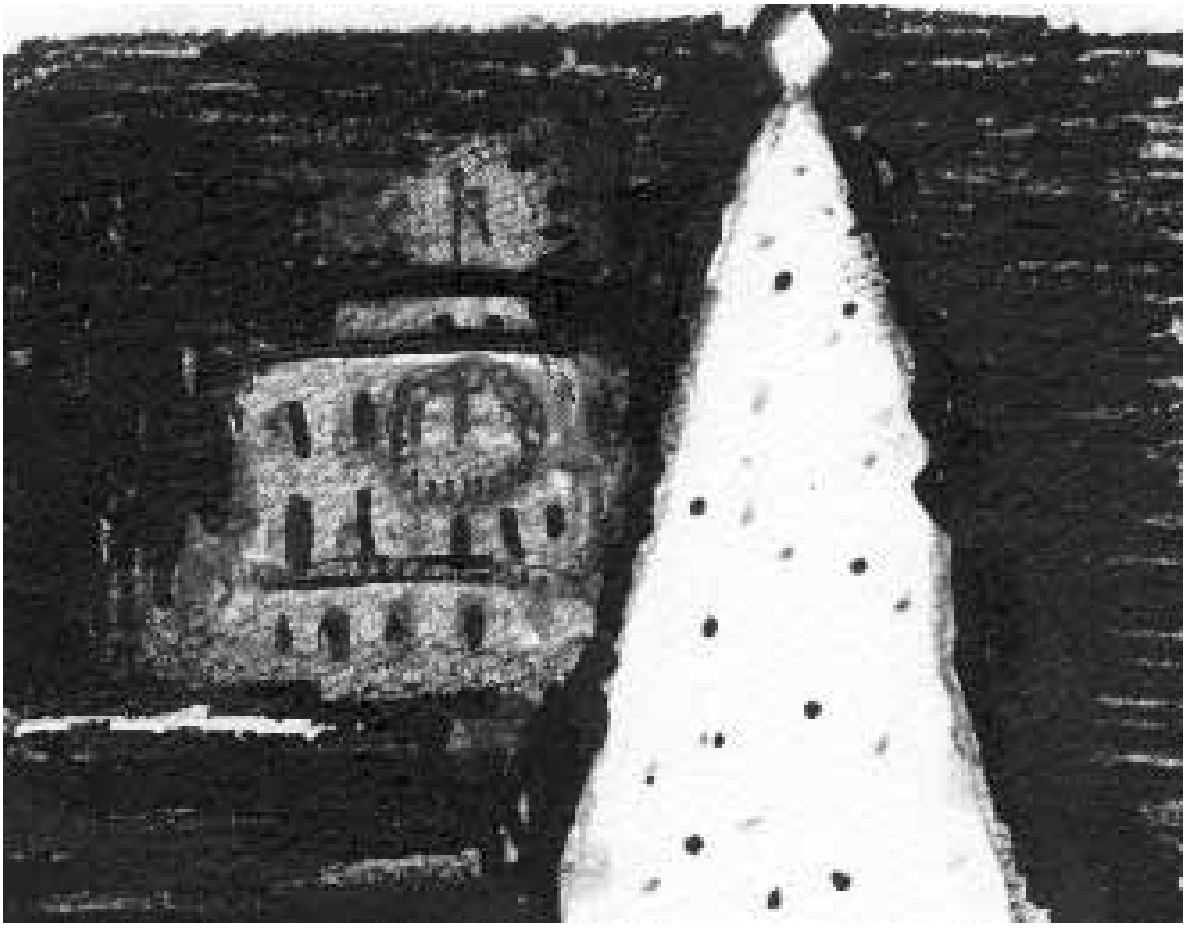
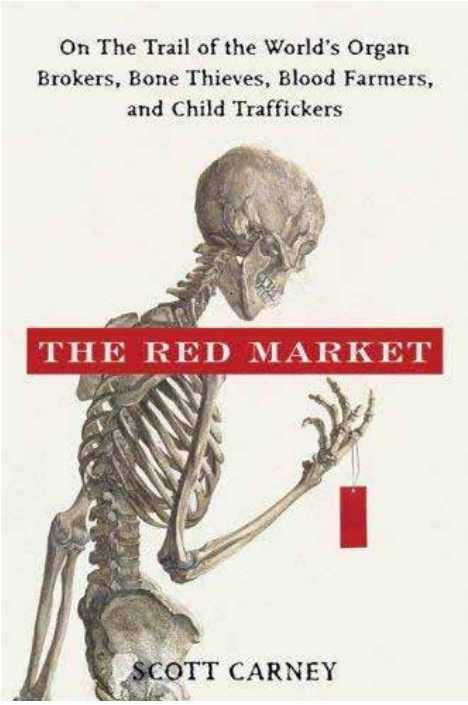


Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の書評
「レッド・マーケット」
スコット・カーニー

ポトマック・アソシエーツ　池原 麻里子



「レッド・マーケット」
スコット・カーニー（ハーパーコリンズ）

ディカル・ツーリズムが盛んになっているが、本書はそれも含め「レッド・マーケット」と呼ばれる人体や臓器等の売買に関する実態を描いたものである。著者は調査報道専門のジャーナリストとしてインドを中心に5年、調査して本書をまとめたが、この市場は年々、世界中で拡張している。アメリカで腎臓移植手術は26万ドルだが、パキスタンなら14,000ドル、フィリピンでは6,300ドルと格安なのだ。

WHO（世界保健機構）によると臓器移植に使われる臓器の10%が闇市場から入手されたものだという。エジプト、インド、パキスタン、フィリピンなど村人全員が臓器を売り、体を貸すといった現状がある。そして、このレッド・マーケットにおける取引では、売る側、しばしば搾取される側は貧困層である。彼らがこの取引で一時的な収入を得ても、生活が恒久的に改善することはない。改善する唯一のケースは、孤児が国際養子縁組された場合だ。しかし、この場合でも、誘拐された子供が「孤児」として養子に出される生みの親、育ての親双方にとって不幸なケースも稀ではない。

誰にも一番、身近な献血だが、これが世界的標準モデルになるまで、血液は売買されていた。そして一部の国では現在でも血液の売買が行われている。インドでは浮浪者などを家畜のように一か所に閉じ込め、週に1、2回採血した血液を売っていた者が逮捕されているが、このような犯罪行為は稀ではないようだ。

欧米医大の教育の場などで使用される人体全身骨格も、インドの業者が墓から盗難した人骨を欧米企業が入手したものが大半だ。インドは遺骨の輸出や墓を荒らすことを禁じているが、厳しく取り締まっているわけではない。

2004年末の大津波の被災者が住むタミル・ナードゥ州の難民村では女性の大半が腎臓を売った。1日1ドル以下の収入しかない彼女たちにとって3,000ドルという報酬の約束は夢のような大金だった。しかし、前金800ドルだけが支払われ、手術後は口約束が無視され、体調を崩した彼女たちは通常の労働に従事できなくなった。こういった悪質な腎臓ブローカーの活動はインド全体に及び、50件以上の病院が関与していたという。

腎臓の源はインドばかりではない。拒絶反応制御剤が誕生して以来、エジプト、南アフリカ、ブラジル、フィリピンのスラムが臓器農場と化した。中国では死刑にされた囚人の臓器が売られている。2000年から2005年の公式記録が残っている腎臓移植6万件のうち、腎臓の出所が明らかでない4万件は中国政府が弾圧し、逮捕した法輪功信者のものだったという研究書も存在する。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

キプロスは自国では卵子の売買を禁じられている欧州諸国の女性が卵子を求めてやってくる。卵子を提供するのはキプロスや旧共産圏などからやってきたお金に困った女性たちである。島のロシア、ウクライナ、モルドバ、ルーマニア人女性3万人の25%が卵子を売ったという。

一方、インドでは代理母業が盛んで、それを含めた2012年のメディカル・ツーリズムによる収入は23億ドルになると見込まれている。その他、アメリカの一部の州、カナダ、イスラエル等、代理母が合法なのは数カ国に限られている。インドは2002年に代理母業を合法化したが、代理母を保護する規制は整備されていない。出産時期を管理するため、帝王切開が行われるが、産後に必要なケアが提供されていないのが現状だ。アメリカで代理母を利用すると人工授精から出産まで5万から10万ドルかかる費用が、インドなら15,000ドルから2万ドルで済む。一部のクリニックでは代理母は数人ずつ1部屋に閉じ込められたままで、まるで「出産農場」のようだ。

カズオ・イシグロの「わたしを離さないで」は臓器提供を目的に育てられたクローン人間の物語だ。これが実現するとは思えないが、ニーズが存在し、医学の進歩でその対応が可能になり、国際的規制が存在しない今、レッド・マーケットの撲滅は難題である。

（NEW LEADER 2011年10月号より転載）

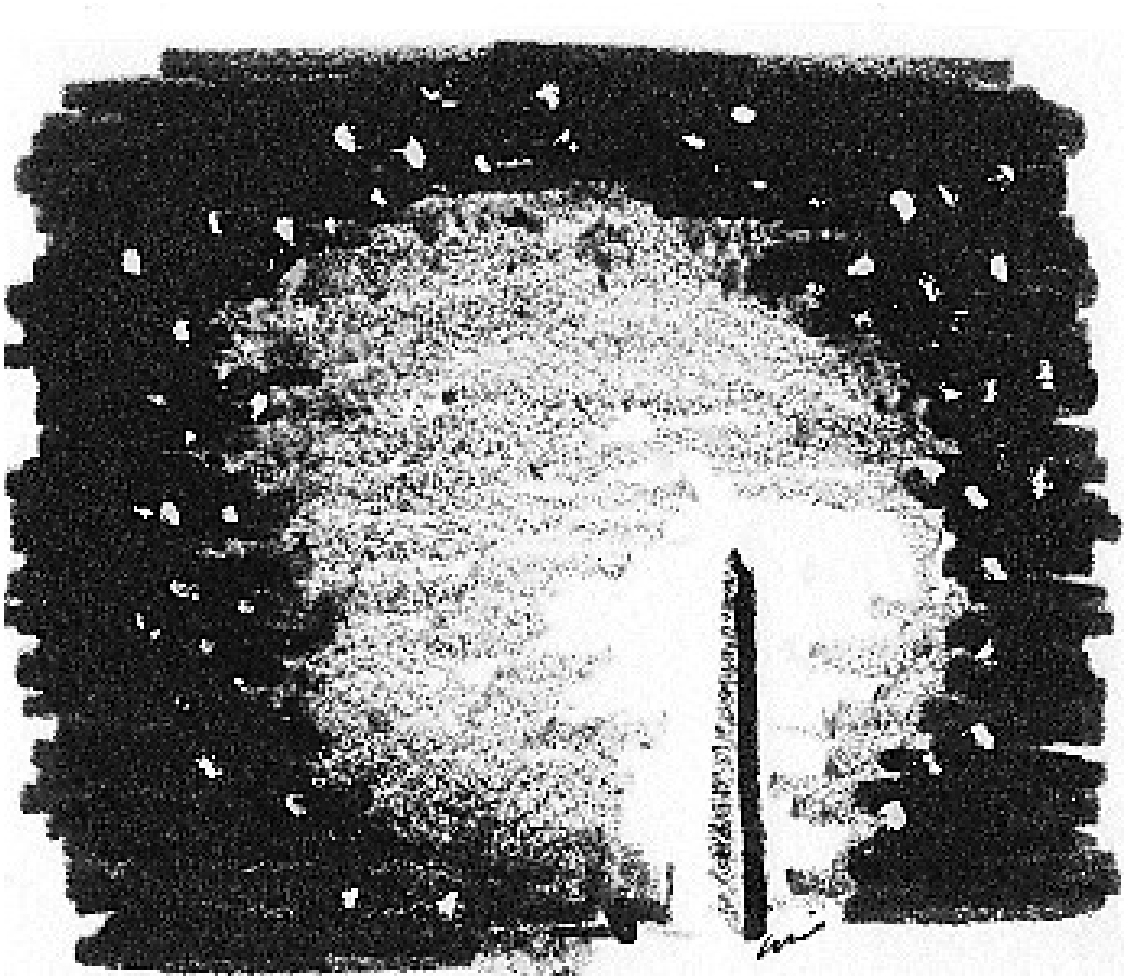


Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

連載小説「ポトマックの煌めき」

～第十話　終宴～

愛川 耀

～前回までのあらすじ～　ワシントンの法律事務所に勤める榊原叶子は街で偶然出逢った福永健に惹かれ、婚約者がいる彼と恋に陥ちた。婚約を解消した健と新たな一歩を踏み出そうとする叶子の前に、米国出張中の元の恋人、不倫相手だった東郷良一が現われ、叶子は酔った彼をアパートに泊めた。良一は既に帰ったと信じていたところ・・。が現われた。

●●●●●●●●●●●●●

寝室からバスタオルを腰に巻いて裸で出て来た良一の姿を目にして、叶子は愕きのあまり悲鳴を上げそうになった。なんで彼がまだアパートにいるのだろう。それもいかにもシャワーから出て来たばかりという姿で。

健も仰天したらしく唖然と良一を見つめ、良一は困惑した顔で叶子と健を交互に見遣ると、自分の失態に気づいたようで慌てて寝室のドアを閉めた。

健が叶子に向けた眼差しは、いったいどういうことなのか、と詰問している。答えたいのに叶子は狼狽のあまり声が出ない。

「違うの」振り絞った声は、自分の声とは思えないほど掠れており、動揺を露にしていた。

「本当に違うの。あなたが思っているようなことじゃないの」

健は叶子の両肩を掴むと、怒りを滲ませた声で尋ねた。

「僕が思っていること？それがどうしてわかる？説明してくれなきゃわからないだろう？」

説明したいのに、いったいどう弁明したら健に納得してもらえるのか、叶子にはわからない。思考が止まり頭が真っ白で上手い釈明を何も考え付かないのだ。信じて欲しい。

叶子が無言のままなのを見て、健はくるりと背を向けて玄関へ向かった。

「待って！行かないで！」

扉がバタンと閉まる音を聴きながら、叶子はただその場に放心したように突っ立っていた。まるで金縛りに遭ったかのように、動けないのだ。

寝室のドアが開いて、ネクタイを締めながら良一が顔を覗かせた。

「おい、追いかけないのか？」

のんびりした良一の声音に神経を逆撫でされ、叶子は寝室へ向かうとベッドの羽袋枕を良一に投げつけた。

「帰って！今すぐ出て行ってちょうだい！」

叶子の剣幕に愕いたのか良一は急いでネクタイを締め終えると靴を履いた。

「心配するなよ。ちゃんと出て行くから。いや、出張の疲れもあって寝過ごしちゃって。それで、せっかくだから風呂でもゆっくり浴びて、叶子の顔をもう一度見てから帰ろうと思っていたんだ」

「早く出て行ってよ！」

叶子がもう一つの枕を良一に投げつけると、やっと身仕舞いを終えた彼はボストンバッグを掴んでそそくさと退場した。

再び玄関のドアがバタンと閉まる音がした。

＊　愛川耀氏（ペンネーム）はJCAW会員。ブログでワシントン生活を綴るフォトエッセイを連載中（http://blogs.yahoo.co.jp/aikawaakihome）。小説に登場する場所名・店名等以外はすべてフィクションです。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

叶子はベッドの端に茫然自失の状態で腰掛けたまま、物音一つ無い静寂に一心に耳を傾ける。鼓動の音が聴こえる。それは健の胸の鼓動に聴こえる。彼を喪ってしまったという苦い事実に胸が張り裂けそうだ。昔の男だとはいえ、何故同情して良一を泊めてやったりしたのだろう。どうして朝方急き立ててでもアパートを追い出しておかなかったのだろう。後悔の念に胸を押し潰されそうになる。もしかして、これは良一と不倫をしていた自分に今になって与えられた天罰なのだろうか。

健を喪ってしまった。信頼を裏切り傷つけてしまったのだから、彼はもう戻って来ないに違いない。

そう考えた途端に涙が溢れて止まらなくなった。彼の柔らかな眼差し、力強い抱擁、熱いキス。それがすべて手の届かないものになってしまったことを想うと、息をつけぬほど苦しくなる。

いったいどれぐらい長い間そうしていたのか、わからない。数分であったようにも思えるし、数時間経ったようにも感じられた。

玄関のブザーが煩く鳴り、叶子の神経が凍りついた。ホテルが見つからなかったとか理由をつけて良一が戻って来たに相違ないからだ。しばらくすると来訪者はどうやら諦めたらしく、静寂が戻って来た。全神経が耳になったかのようで、叶子は息を潜める。

ドアをノックする微かな物音を聴いた。間違いない。叶子は立ち上がるとドアへ向かった。良一がアパートに闖入して来たのだった管理人か警察を呼んででも追い返してもらおうと決意し、覗き穴から恐る恐る覗いてみると、そこに立っていたのは健だった。

急いでドアを開けて招き入れると叶子は彼の首に抱きついた。

「ごめんなさい。本当にごめんなさい。あの人、昔の彼なの。きっぱり別れたのだけれど、ニューヨークへ出張とかでワシントンへ遣って来て。ご飯を一緒に食べただけなの。酔っ払ってどうしようもないからアパートのソファーに寝かせて、朝、ニューヨークへ戻ったはずだった。本当にそれだけなの」

堰を切ったように訴える叶子の腕を首から外すと、健は意味深な笑みを浮かべた。

「それは、信じられない話だな。だって、あの男の話と随分違う」

「逢ったの？」

「ああ、君の説明を聞こうと下でブラブラしていたらあいつが出て来た」

良一が健に逢ったとすると彼はとんでもない説明をしたに違いなく、叶子は慄く。

彼女が唖然としていると、健は上着を脱いでネクタイを緩めはじめた。

「とりあえず、ビール、くれる？」

冷蔵庫から缶ビールを出して差し出すと、健はソファーに腰掛け叶子に横に座るように促した。

「あいつの話によると彼は君の叔父さんで、ニューヨークへ出張が入ったのでワシントンへ寄って君にご飯を奢り、心優しい姪の君がホテルのチェックアウトの後フライトの時間までアパートで過ごしていいと言ってくれたので一風呂浴びてゆっくりしていた」

健は口許に含み笑いを浮かべると叶子を振り向いた。

「どう？こっちの話の方が信憑性がありそうだろう？」

彼の言葉に、叶子は再び愕いている。ということは、良一は彼なりに叶子の為に言い訳を考えてくれたらしい。叶子が黙っていると、健が続けた。

「それでさ、ところで、とか言って僕達の関係をいろいろ詮索するんだ。叔父としては可愛い姪の君がワシントンで一人暮らしをしているのが心配で、とかでね」

「それで、あなたは答えたの？」

叶子が尋ねると、健はこちらを向いて微笑した。

「ああ。僕はあいつにきっちり言ってやったさ。僕は君のことを誰よりも愛しているし、他の男になんか絶対渡さない、ってね」

胸がいっぱいになり叶子が思わず涙を滲ませると、健は真面目な顔になって、提案した。

「これからは隠し事はなしにしよう。きっと君は一人でことを片付けようと思ったのかもしれないけれど、君が僕の婚約解消を手伝ってくれたみたいに、僕だって君の助けになれる。もしあの男が君

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

にまとわりついたりするんだったら、本気でぶん殴ってやる。それぐらいはできるからさ」
「ごめんなさい。怖かったの。あの人が突然現われてあなたがどんなふうに思うかって」
叶子の言葉に、健は笑った。
「そりゃ、愕いたさ。正直言って、怒り心頭だ。だって、そうだろう？あいつが裸で君のベッドルームから現われたんだからな。でも、外へ出て頭を冷やしてからこう考えた。君が僕以外の男に靡くはずがない、とね」
「大変な自信ね」
言いながら、叶子は健の首を抱き締める。
「でも、すごく当たっているわ」

ベイカー・クリフォードが法務アドヴァイサーを務めるタイの電力案件は売電契約も整い順調に動き出した。主要契約条項は既にスポンサー側から融資側に提示してあり融資側の第一次回答も受け取っている。顔を合わせての協議はバンコクで開催されることになった。
バンコクへは香港事務所のアレックスと共に叶子も行くことになった。火曜日の晩にバンコク入りし土曜日に帰ってくるという強行軍だ。国際投融資公社の健も現地オフィスのスタッフと共に協議に参加するそうで、その後マニラへ廻ると言っている。
叶子はスポンサー側、健は融資側なので、この案件に関しては互いに一切話をしないことにしており、朝食に始まり軽食を会議室に並べての昼食、夕食を含め延々と続く三日間の協議の間、会場となっているホテルの会議室以外では逢うことがなかった。
最終日を終えて叶子がスポンサー側の打ち上げのような夕食で集っている時に、健から、見せたいものがあるからホテルのロビーで十一時に落ち合おう、と携帯に連絡があった。
深夜に健が連れて行ってくれたのはバンヤンツリーという瀟洒な高層ホテルだ。
五十九階まで高速エレベーターで行き、そこから大理石の階段を登ると屋外が見える場所に出るのだが、健に手を引かれて更に階段を登ると、そこはソファーが並びテーブルの上のキャンドルや照明が美しく煌く天上の南国リゾートのような幻想的なラウンジバーだった。
低いガラスの塀しか遮るものが無い六十階の高みにある屋上ラウンジからは三百六十度パノラマのバンコクの夜景が見渡せ、林立する摩天楼の黒い影、無数の窓灯り、そしてネオンや街燈の灯りが彩りを添える様は宝石を鏤めたごとく美しい。
「素晴らしいわ！こんなに雄大で綺麗な夜景、今まで見たことがない」
感激のあまり叶子が息を弾ませて賞賛すると、健は嬉しそうに寄り添って耳許で囁いた。
「これを是非君に見せたかったんだ。愛の誓いを捧げるのに世界中でここほど相応しい場所ってないだろう？」
愛の誓い、という台詞に愕いて叶子が健を振り向くと、言葉は要らないとでもいうように優しく唇を塞がれた。（了）

【執筆後記】

ワシントンは四季を通じて美しくロマンチックな街、ご当地恋愛小説『ポトマックの煌めき』をお楽しみ頂けましたでしょうか。一年間のご愛読をどうも有難うございました。(愛川耀)

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の簡単レシピ：「ソーセージ入りBBQスープ」

フードクリエイター　木内 由紀

ハロウィン、サンクスギビングと終わり、いよいよクリスマスシーズンの到来ですね。木々の葉もすっかり落ちてしまいました。

今年は10月終わりに雪が降ったか？と思えばサンクスギビングはまだ暖かくコートも必要ない日が過ごせましたね。極度に寒がりな私は、暖冬でありますことを願うばかりです。

さて、冬の夕食には、体の芯から温まるスープを作る機会が多くなります。今月は、野菜をいっぱい摂取できる、「食べるスープ」を、アメリカンなテイストでご紹介致します。

ソーセージ入りBBQスープ【4人分】

≪材料≫
・ソーセージ：：3本（180g程度）
・にんにくすりおろし：：1かけ分
・玉ねぎ：：1/2個
・にんじん：：50g
・ジャガイモ：：中1個（130g）
・キャベツ：：130g
・ミニトマト：：10個程度
・水：：500cc

[a]
・中華だし：：小さじ1
・BBQソース：：大さじ2

≪作り方≫
【1】ソーセージは2cmに、玉ねぎはくし切りにした後食べやすい大きさに、ジャガイモは1、2cm角、にんじんは8mm角、キャベツは一口大に切ります。

【2】鍋に油とにんにくを加え火にかけ、良い香りがしてきたら玉ねぎ、ソーセージ、にんじん、ジャガイモの順に加え都度炒め、玉ねぎが透き通ってきたら水を加えます。

【3】煮立って来たら[a]を加え、さらにキャベツも加え弱火～中火で5～8分程度煮込みます。仕上げに半分に切ったプチトマトを加え出来上がり。

≪ポイント≫
スープは、出来上がってから蓋をして一度冷ます事により、具の中まで味がしみ込み全体に味が

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

馴染み、更に美味しく頂けます。頂く前に再度温めてどうぞ。

●BBQソースはいろいろと試した訳ではないのですが、[Jack Daniel's]のものが気に入っています。
スープの他、お肉に絡めグリルや煮込み、フライやオムレツと一緒に、ケチャぷの代用品として使ってみて下さい。
その他、ロコモコ丼風に（ご飯＋サラダ＋ビーフパテ＋目玉焼き）の上にかけて…などなどいろいろな場面で大活躍です!。

●ここで使用しているソーセージは[Johonsonville]のものを使っていますが、どんなソーセージでもOK。アメリカのソーセージは味が濃いので、こういった煮込み料理のベースに使用すると旨みが出て美味しい出汁をだしてくれますヨ。

～フードクリエイター　木内由紀　プロフィール～

日々の料理や手作りパン、スイーツのレシピなど1,000以上を、ブログ「ゆちのお料理実験室」で紹介。

簡単でおいしい内容が人気を呼び、テレビや雑誌、企業にも多数レシピを提供している。

現在アメリカ、ワシントンDC近くバージニア州にて活動中。

ブログ：http://oryorijikken.blog48.fc2.com/

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

English Rescue by Jennifer：「日本人が間違いやすい英語表現⑨」

ジェニファー・スワンソン

It's almost Christmas! Merry Christmas and Happy Holidays to all the Japanese community! All the best in the new year, too.

Many people ask me what does "come over" mean. And how is it different from "come up, come down and come."

We use all of them to simple mean "come." But the other expressions indicate a familiarity between the two speakers; speaking between friends. Compare the difference:

COME: I will come at 6pm. (私は6時に行きます。)
COME OVER: I will come over at 6pm.（私は6時に遊びに行くわ。ー親しい人同士）

Furthermore, when thinking geographically, we can use "come up" or "come down." For example, everyone knows that from Washington DC, we "come up" to New York City and Boston, and "come down" from points north to DC.

When I visit my family in Pennsylvania, I usually say:
COME UP: I will come up at 6pm.（私は6時に遊びに行くわ（南から北の方向）。ー親しい人同士）

And alternatively, my family asks me:
COME UP: When are you coming up?（いつこっち来るの？（南から北の方向）。ー親しい人同士）

And when they visit me:
COME DOWN: We are coming down at 6pm. (私達は6時にそっちへ行くわ（北から南の方向）。ー親しい人同士)

In every case, the words are used because of the close connection with people, between friends, family and close colleagues. I hope you will be able to visit your close friends and family this holiday season, and use these expressions as well! Happy Holidays!

～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。
日米でのさまざまな経験を基に、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

日米協会英語レッスンでは第7期生徒を募集中です。詳しくは：http://www.us-japan.org/dc/pdf/2011/ELS%20Spring%202011%20Registration.pdf

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

12月号編集後記

感謝祭が終わりクリスマスが近付いて来ると、今年もいよいよ終わりかと感じ慌しく過ごす今日この頃であります。

会報12月号で、連載小説『ポトマックの煌き』は第10話（最終回）をもって完結となります。新会報担当理事として今年3月号から編集作業に携わってまいりましたが、『ポトマックの煌き』が始まりましたのが、その直前の1月・2月合併号でした。
ほぼ生まれた時期が同じということもあり、仲間意識からか会報から突如姿が消えるのはかなりつらいものがあります。愛川耀様長い間お疲れ様でした。

始まりが有れば、必ず終わりがあるのは物事の道理です。

何かが終わる事によって、何か別の新しいものが生まれることを期待する方はより前向きな思考の持ち主です。

今年誕生した日本の野田政権に期待を寄せつつも、世界経済の不安定な状況と米国が直面する厳しい国家予算が日・米の関係にどのような試練をもたらすのかと、とかく悲観論に支配されがちですが、来年は桜寄贈100周年の記念すべき年でもあり、2012年の干支である辰にあやかって天まで昇る気概で新しい挑戦すべき目標を持ち,前向きに踏ん張ることこそ重要でありましょう。

いずれにしても今年1年間ご愛読頂きましてまことに有難うございました。

又、寄稿頂いた皆様には心より感謝申し上げます。来年もより充実した会報を目指し努力して参りますのでご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

為村・伊藤

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。